

今年で3回目を迎える「東京アニメアワードフェスティバルII TAAF2016」の趨勢が、国内外で話題となつていきます。

当初発表の計画通り3月18日、26日に開催出来るのかな。縦んば実施に漕ぎ着けたとして、果たして評価されるのかな。etc.

昨年10月31日が応募締切日だった国際コンペティション部門長編&短編アニメーションを10月28日に急遽11月15日へと延長。更には11月30日へと再延長。而も英文では今年1月31日が最終締切と二重基準をHPに表示。

他方で最終締切4日後の2月4日には「世界中から集まった優秀な作品の中からノミネートタイトルが決定しました」と短編アニメーションの一次選考会実施を報告。けれども「7時間におよぶ熱い議論」が交わされたと高らかに謳う「国際コンペティション」の選考委員が誰なのか、未だに非公表。応募総数も不明です。何とも五里霧中だなあと案じて

連載

第14回

さやかだけど、 たしかなこと。

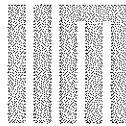
田中康夫

You are the Hope for Tomorrow.

「東京アニメアワードフェスティバル2016」

新国立競技場に次ぐ迷走か!?

レイアウト——宗利淳—デザイン



いると、(株)サイゾーが運営する「オタクニュース・ポータル」『おたぼる』に相前後して3本の記事がアップされました。

「コンペ応募作品の審査もできない!」東京アニメアワードフェスティバル2016の運営は破綻状態—1月23日。

「東京都も出資する『東京アニメアワードフェスティバル2016』が破綻?」3月開催を前に、日本動画協会がコンペ応募作約800本を審査せず放棄—1月28日。

「アカデミー賞の短編ノミネート作品が

アニメ賞で受賞!—一方、東京アニメアワードフェスティバル2016の一次審査が、強行で今後

は?—2月8日。

これを受けてネット上は侃侃諷諷・喧喧囂囂な状態に。ジャーナリストの津田大介氏は「大変なことになってるな、この問題。五輪組織委員会もそうだけど、徹底的に自分たちの面子が大事で無理を通せば道理が引つ込むと思ってるのだろうか」とツイート。

摩訶不思議な惨状を憂うツイートを僕もしました。「何なんだ? #東京アニメアワードフェスティバル」一方向的にディレクター3氏を日本動画協会が解任&国内外からのコンペ応募作800本を審査せず放棄(5000万円出資&共催の東京都は沈黙)水木しげる翁も泉下で嘆いているぞ!」と。

東京都が共催する「AAF2016」は、東京アニメアワードフェスティバル実行委員会と日本動画協会の主催です。昨年が続いて「HBOシネマス」日本橋で開催される予定。外務省、観光庁、経済産業省、文化庁、中央区、国際交流基金、日本政府観光局(JNTO)、日本貿易振興機構(JETRO)等の官公庁も後援に名前を連ねます。

ポカミスとは思えぬ迷走の原因を探った「おたぼる」に拠れば、「海外との折衝や協賛企業を取りまとめていた担当者、引き継ぎもなく一方向的に解任し」、「実行委員会の関係者も困惑を隠さない」状況が続いています。

10月31日を以てフェスティバルディレクターの江口美都絵氏、テ

クニカルディレクターの粟田良成氏、プロデューサーの三上公也氏の3氏を解任、と一般社団法人日本動画協会のHPに掲出されたのは12月25日。

これに先立ち10人の委員中7人が出席して12月2日に開催の第3回実行委員会では、「会議を開催し打ち合わせすべき重要な案件で」、「遺憾である」と「解任」に懸念を表明。日本動画協会専務理事が事務局長を務める「AAF」事務局に対し、「当初の計画通り」、「江口氏チームの活用」を求め、「意見具申」が行われています。

フランスで開催される何れも世界最大のクレルモンフェラン国際短編映画祭、アヌシー国際アニメーション映画祭の公式招待ゲストとして、日本のアニメを世界に紹介する世界のアニメを日本に紹介してきた江口嬢は、アカデミー短編アニメ賞を邦画で初受賞した『つみきのいえ』のプロモーションも手掛けた人物です。「債権者」の日本動画協会は、彼



女ら3人を「債権者」として相手取り、業務妨害仮処分命令申立を行います。東京地方裁判所は和解を斡旋するも協会側は拒絶。民事第9部宛に1月21日、提出した最終主張書面では、「既払業務委託料金216万円を、即座に、債権者に対して返還しなければならぬ」と「最終和解提案」。以下の挑発的な文言も羅列されています。

曰く、「債権者が業務委託契約に基づいて履行した業務は皆無(ゼロ)であること」。「債権者らのAAF2016への業務復帰の可能性はゼロであること」。「AAF2016での『ショートフィルムデポ』の不採用の決定」。

日本動画協会代理人の弁護士も、同病相憐れむ心智なのか、書面の日付を1ヶ月前の12月21日と誤記。更には翌「1月」22日の審尋30分前には一転、「本仮処分を続行する実益がもはやないので、本仮処分を終結する」支離滅裂な取下書を提出しました。

即ち、「コンペティションへの参加者応募の一方法として」企画し

ていた「ショートフィルムデポ」は「SFDを使用しないこと」になったのです。SFDとは江口嬢の元で一括管理していたコンペティション応募作品のデータベース。「業務委託契約に基づいて履行した業務」を「皆無」にしたのは事務局だったのです。これが再三の応募期間延長に至った深層。

2月8日に江口嬢がフェイスブックに投稿した文章を援用すれば、「正式に応募をした世界各国からの思いのこもった、数百の作品を『無視・大量放棄』して実施した、映画祭史上例のない、言語道断の行為」が冒頭の一次選考会。解せないのは、「税金が投入されていることを十分に理解し」、「契約の締結等については透明性、公平性に十分配慮し、適正に執行」と文書化し、5千万円を負担している東京都。担当の産業労働局観光部は「きちんとやっていると聞いていますよ」と「おたぼる」の取材に、都議会議員の照会にも「仮に選考出来ない作品が出たら、次年度に審査を回すので問題ない」と回答しているのですから。